

地球にECO(いーこ)としよう



省エネグループ通信



エコでたくさんの笑顔を！

川崎市生涯学習財団 阿部 一

日本は、もともと四季のある国ですから、夏は暑くて、冬は寒いということが通常の見方ですが、地球温暖化により、ここ数年は、異常な猛暑が続いており、夏の気温はどんどん上昇を続けています。さらに台風やタ立や暴風雨など異常気象が増加している傾向にあります。こういった現象は、世界各地で起こっています。地球温暖化の原因は、二酸化炭素(CO₂)などの温暖化ガスの急増です。わたしたちが便利で快適な生活をするために、各家庭で使っている電気やガスなどの消費によってCO₂は、大量に発生しています。

便利で快適な生活の環境を急激に変えていくことは、難しいことですが、まずは、現在の自分たちの生活の中から温暖化防止に取り組み、現状の環境を維持すること、そして少しずつCO₂の削減をしていくことが求められます。

この必要性から川崎市地球温暖化防止活動推進センターの省エネグループ「エコ楽しみ隊」の皆さんが取り組んでいる「いま自分たちができること」を焦点にしながら活動している環境出前授業は、将来を担う子どもたちにとって大きな意味を持っています。

5年前から省エネグループの皆さんの各学校での出前授業の参観をさせていただいておりますが、いつも感心をさせられます。伝えたいことがたくさんあり、どうしても専門的な話になりがちなのですが、子どもたちの意欲・関心および理解度・納得度を常にチェックし、限られた時間の中での授業展開

を常に考え実践をしていただいております。

「節電」「手回し発電体験」「温暖化模型」「火力発電模型」「はっぱはえらい」などについて事前に打ち合わせをし、綿密に授業の流し方を考え共通理解をした上での活動となっているので先生方からいつも素晴らしい評価をいただいております。また、子どもたちからの質問等にも一人ひとり丁寧に答え、アンケートの分析もしっかり行い、次の活動に生かしていることもよくわかります。出前授業を行って、子どもたちから「エコの大切さがわかった」「少しずつ節電に取り組んでいきたい」などの感想があり、日頃の皆さんの努力がしっかり成果として表れているのだと思います。

未来を担う子どもたちにとって地球温暖化防止が身近な問題として意識し、「どうしていくことが求められているか」子どもたち一人ひとりが、考える大きなきっかけになっていると思います。子どもたちの笑顔と活動されている皆さんの笑顔がさらにたくさん出てくるようこれからも願っております。



省エネグループ 夏のイベント 見て、触れて、感じて

イベントでは小学生や保護者を対象に、市民生活に密接に関係した体験型・双方向型で構成し、省エネ・節電・節水の大切さをとおして地球温暖化防止への関心を高めるよう企画しています。

5月～8月は10ヶ所で開催されたイベントに企画参加し、約1100人のブース来訪者がありました。

[イベントで実施したおもな企画]

◆ 手回し発電体験

白熱電球、蛍光灯、LED電力負荷の違いを体験します。また実際の電球で消費電力を計測し目で確かめます。(5/28、7/3、7/23、7/26、8/9、8/21)

◆ 燃料電池模型展示

注目の水素エネルギーを使った燃料電池の仕組みも紹介します。(7/3、7/23、7/26、8/9、8/21)



手回し発電体験と燃料電池 8/9 キングスカイフロント

◆ 体験学習と自然観察「はっぱはえらい」

木の葉っぱが地球環境とどうかかわっているかを体験的に学びます。地球温暖化と木(森)のはたらきについて知ってもらいたいと思います。野外では蒸散作用の観察や木の種類や太さから二酸化炭素の吸収量を測ります。(7/24、8/21)



体験学習と自然観察 7/24 若宮神社

[イベント一覧]

- ◇ 5月28日 ふれあい福祉バザールメルシーまつり
“手回し発電体験”(古市場・天満天神社)
- ◇ 6月1～30日 月間展示 グループ活動紹介と実績公開“出前授業&エコライフチャレンジ”
(川崎市CC交流コーナー)
- ◇ 6月28日 エコクロスマッチング“グループ活動紹介”(川崎市CC交流コーナー)
- ◇ 7月3日 2016インターナショナル・フェスティバルinカワサキ“手回し発電体験&燃料電池模型”
(川崎市国際交流センター)
- ◇ 7月23日 夏休み!自由研究(高津市民館)
- ◇ 7月24日 プラザ大師たまり場事業 学習と自然観察体験教室(大師・若宮神社)
- ◇ 7月26日 多摩川エコミュージアム 夏休み自由研究(せせらぎ館)
- ◇ 8月1日 夏休み!多摩区エコフェスタ(多摩区役所)
- ◇ 8月9日 キングスカイフロント 夏の科学イベント
“手回し発電体験&燃料電池模型”
(川崎生命科学・環境研究センターLISE)
- ◇ 8月21日 生田緑地サマーミュージアム
“手回し発電体験&燃料電池模型”“自然観察”
(生田緑地)

◆ 工作体験・「クリップモーターを作ろう」

身近な材料でクリップモーターを作る工作体験をとおして、モーターが出来る仕組みを理解しながら作る楽しさと達成感をあじわってもらいます。
(7/23、7/26、8/1)



工作教室・クリップモーターを作ろう 7/26 せせらぎ館

我が国の地球温暖化対策計画が決定！

クールチョイスで未来を選ぼう！

温室効果ガスの削減に日本全体で取り組むための「地球温暖化対策計画」が平成 28 年 5 月 13 日に閣議決定されました。国連に提出した「2030 年度に 13 年度比 26%減」を達成するための対策のほか、長期的に目指す目標として「50 年 80%減」(12年民主党政権が閣議決定)が明記されました。

削減目標 26%のうち、25%をエネルギー起源のCO₂削減で計画されています。エネルギー起源のCO₂削減目標を部門ごとに表 1 に示します。家庭部門と業務部門の目標は 40%と非常に高く設定されています。両部門の増加の原因は、電力由来のCO₂排出割合が多く、電力のCO₂排出係数の悪化(東日本大震災後の原子力発電所の運転停止を受け、火力発電を増加した)によるものです。しかし、2030 年度の我が国のエネルギーミックスの計画によれば、CO₂排出係数は表 1 に示すように改善される計画です。これが実現すれば、家庭部門のCO₂排出は約 25%削減されるので、残りは約 15%となります。

表 1 エネルギー起源のCO₂削減目標と電力のCO₂排出係数

部門	1990 年度 の実績 百万ト CO2	2013 年度 の実績 百万ト CO2	電力由 来の割 合	2030 年度 の目標 百万ト CO2	2030 年度の 13 年度比 削減率
産業部門	503	429	18%	401	7 %
業務その他部門	134	279	76%	168	40 %
家庭部門	131	201	73%	122	40 %
運輸部門	206	225	6%	163	28 %
エネルギー転換部門	92	101		73	28 %
合計	1,066	1,235		927	25 %
電力の CO2 排出係数	0.417	0.570		0.37	kg-CO2/kWh

家庭部門での取組みを表 2 に示します。住宅の省エネ化、省エネ機器の導入、エネルギー管理等の個々の対策が計画されています。その他に、国民運動として展開して全国民が参加する『クールチョイス(賢い選択)』があります。省エネ・低炭素型の製品やサー

ぼくたちの COP21 No.2 待機電力の巻

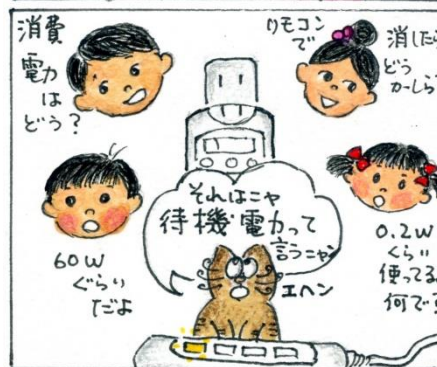
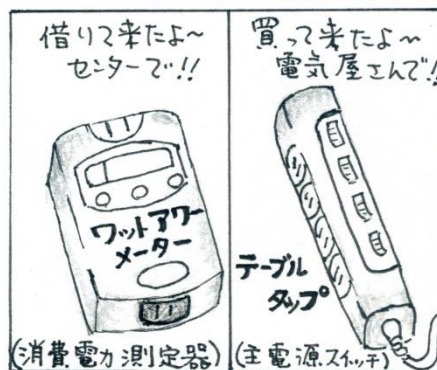


表 2 家庭部門での取組み

◆国民運動の展開

- クールチョイス

◆住宅の省エネ化

- 新築住宅の省エネ基準適合義務化
- 既存住宅の断熱改修
- ZEH(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)の推進

◆省エネ機器の導入

- 高効率な省エネ機器の普及
- トップランナー制度等による省エネ性能向上

◆徹底的なエネルギー管理

- HEMS、スマートメーターを利用したエネルギー管理

い選択)』があります。省エネ・低炭素型の製品やサー

ビスや行動などを、温暖化対策に資するように選択していこうという取り組みです。例えば、照明はLEDを選ぶ、旅行に行くなら電車か車かどちらを選ぶか、食べ物は残さず食品ロスを減らす、などがあります。身近な毎日の生活でどう選択するか、国民一人一人の自主的な行動が未来をつくるという考えです。皆で賢い選択クールチョイスしていきましょう！

(出典:地球温暖化対策計画)

「川崎生まれで、川崎育ち。川崎以外で生きたことはありません」というのが、私の定番の自己紹介です。

私が小学生の頃、川崎市は大気汚染公害が激しい時期で、夏になると光化学スモッグが発生し、外で遊んでいても教室に駆け込むことが多々ありました。こんな環境で大人になれるのだろうかと思暗然と思ったことが、環境を考えるきっかけだったように思います。

初めて具体的に環境活動に関わったのは、タイでした。エビ養殖のために大量伐採された森林復元のため、南部海岸域で行うマングローブの植林活動に参加したのです。初めてのタイ、子どもたちはシャイだけれど人懐こく、一度限りのつもりが、うっかり「来年もまた来るからね！」と約束をしてしまい、以来、スタッフとして10年以上、植林活動に関わることになりました。また、フィジーや内蒙古での植林にも参加しました。日本とは違うそれぞれの土地の人や文化、気候特性など、実際に現地を訪れて木を育てていくことを通して、環境について肌で学ぶことができました。

とても充実した活動でしたが、ある時期から「海外でばかり活動をしている場合だろうか」と思い始め、地元・川崎の環境について真面目に関わろうと考え、川崎市が開催している『地域環境リーダー育成講座』の第5期に参加しました。2002年のことです。

現在は『川崎フューチャー・ネットワーク』という団



体を立ち上げ、エコツアーを行ったり、さまざまな環境とまちづくりの課題を考える「学びあいエコサロン」を毎月1回(第3火曜日夜)開催したり、夏休みには「川崎の公害映画上映会」を開催し、川崎で何があったのか、なぜ公害が起こってしまったのか、そこからの学びを共有できる場づくりを行っています。環境について考え、行動する人を増やすことが目標です。

環境というのは、人が生きていく世界を形作る基本的なもの。それが壊れては、人も生物も生きていくことができません。10年前に植えたマングローブは、今は3mを越える森となっていますが、そうなるまでには多くの課題があり、また長い時間がかかりました。環境保全には、この「時間」の概念がとても大事だと考えています。ネイティブ・アメリカンの言葉「7代先の世代のことを考えて物事を決定する」にあるように、今、目の前にあることだけではなく、未来を見通す視点が必要なのではないでしょうか。

—ご意見をお寄せください—

本紙に対する、ご意見、ご要望、ご感想、更には皆様のエコ情報・体験などを下記へお寄せください。皆様と共に、地球環境を維持するため、「楽しく、かつこよく、得する」エコを実践していきたいと思っています。

連絡先

川崎市地球温暖化防止活動推進センター 省エネグループ

〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 高津市民館内

TEL 044-813-1313 FAX 044-813-1350

E-mail : office@kwccca.com

ホームページ : <http://syo-ene-group.sunnyday.jp/homepage/>

発行責任者: 省エネグループ代表 八木洋一

